

米国経済・株式市場情報

長期金利低下後もバリュー・高配当株が有利な展開続く

利上げペースの鈍化が意識され米国株は堅調に推移

- ▶ 次回12月米連邦公開市場委員会(FOMC)において利上げペースが鈍化するとの観測が強まり、米長期金利は低下、米国株は緩やかな上昇。
- ▶ 米長期金利低下後もバリュー・高配当株が有利な相場展開となっており、この傾向は当面続くか。

～利上げペース鈍化の観測から緩やかに上昇～

● 11月のFOMC後の記者会見において、パウエル議長から今後の利上げ幅縮小について言及があり、11月23日発表の議事要旨においても、多くの参加者が、利上げペース鈍化が「間もなく適切になる」との見方を示したことがわかりました。市場では次回12月会合において利上げペースが鈍化するとの観測が強まり、一時4.2%台まで上昇していた米長期金利は、3.4%台まで低下しています。米国株は緩やかな上昇基調となり、直近では変動が大きいグロース株に対し、バリュー・高配当株が比較的安定的かつ堅調に推移していることがわかります(図表1)。

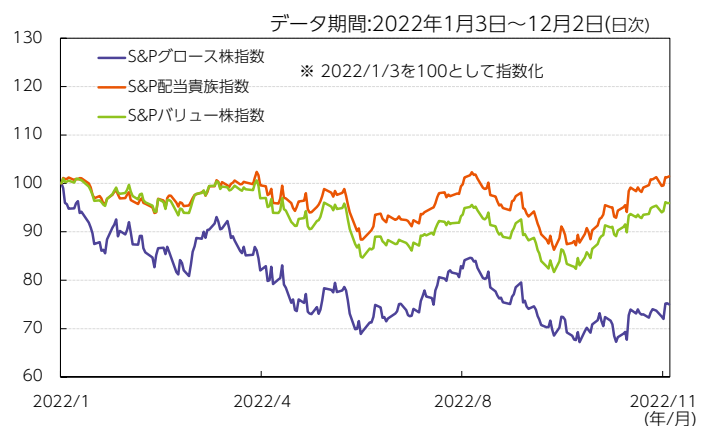
～過去の利上げ休止時は米国株上昇～

● 利上げペース鈍化のタイミングが近づいているとみられる中、市場の関心は利上げ休止時期に移っています。前回2019年1月の利上げ休止時には、利上げ休止に先立ち米長期金利は2018年11月をピークに、景気後退を織り込む形で低下傾向となりました(図表2)。一方で米国株は、利上げが休止された2019年初より回復基調となり、2020年2月まで約40%上昇しました(図表2)。

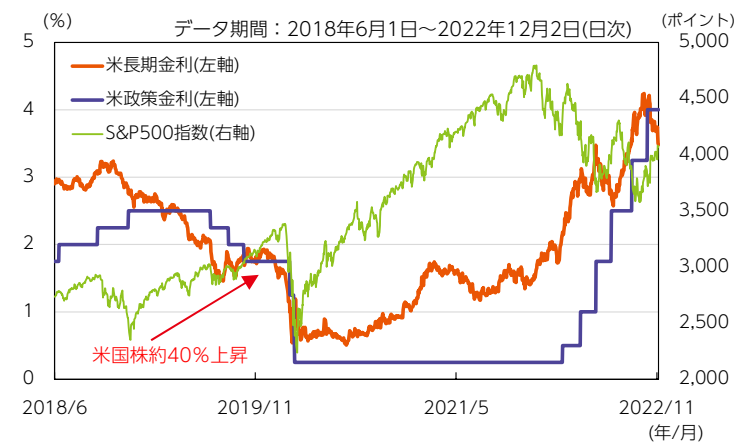
～バリュー・高配当株有利な展開が継続～

● 利上げにより長期金利が上昇すると、割高感が意識されやすいグロース株が売られ、逆に長期金利が低下するとグロース株が買われるという相場がこれまで続いてきました。しかし、足元では景気後退がより一層意識されるようになり、ハイテク企業を中心に、業績見通しの下方修正や人員整理の動きが相次いで出てきています。このため、これまでのような長期金利低下時に、グロース株が買われる動きは減り、長期金利低下後もバリュー・高配当株が有利な展開が続いています(図表3)。相場の転換点ともいえる状況下で、景気後退がどの程度のものになるか不透明感が漂っており、当面バリュー・高配当株が有利な相場展開が続くことが想定されます。

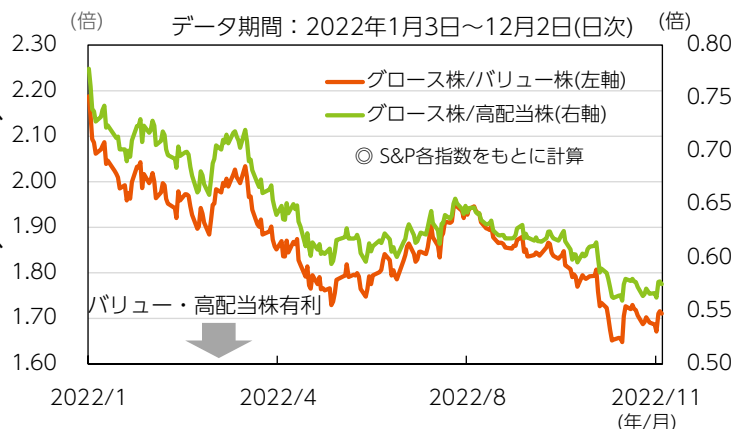
図表1：年初来の各指数の推移



図表2：2019年利上げ休止時の金利と株の推移



図表3：年初来のグロース株/高配当株などの推移



出所) 図表1～3はブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

コールセンター 0120-762-506
9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）
ホームページ <https://www.nam.co.jp/>